

晩年

D・A・N 通信

No.9

2024. 05. 21～2024. 08. 20

団 士郎

仕方ないことだが、まあ身のいろんなものに不具合が起きる。なのに心身は今のところ至って順調である。私の身代わりをモノたちが引き受けてくれているのかと思ったりするくらいだ。だから悪態をつかず、周りの人に助けられながらメンテナンスにいそむ。何事も維持継続はなかなかの労力やコストが必要だ。

I phone の容量がギリギリになって久しかった。加えて一度交換したバッテリーが持たなくなっていた。5年あまりも使っていたから諦めて買い換えに。できるだけ何も変化させたくなかったのはたしかだが、バッテリーが長持ちするようになった以外、前とほとんど変わらない。ただ電源が変わっていて手持ちのアダプターや充電機器は皆使えないみたいだ、しらんけど。

大音量で映画を観ても、「うるさい！」とは妻が亡くなってから言う人がないので導入した大型TV。結構楽しんでいたが、当たりが悪かったとみえて、ここ半年ほど使えなくなっていた。修理に来てもらったが部品交換で結構な高額。でも観られるようになった途端、映画鑑賞への意欲が高まる。観たことのある映画の好きな場面(ダイハード2の導入部)とか、オープニングからしばらくとか、部分鑑賞を楽しんでいる。

5/ *

金沢に行くのにサンダーバードで敦賀に。そこで北陸新幹線に乗り換えなんて、全然快適じゃない。落ち着いて読書する時間もない。金沢駅近くの展示会場で漫画トーク。部屋一杯の人が聞いてくれた。世話人さんたちと記念撮影。多くが20年付き合いだったりする。



5/ *

翌日は石川県津幡町にこんなところがあって、
その研修室で三時間の講演会。40 名余の
出席。



帰路、内灘町の地震被災現場を見る。砂地の
地面が隆起、陥没していて、まっすぐ建って
いるものがない。電柱まで少し沈んで低くなっ
ていた。ここは能登半島先端地区ではない。
報道もほとんどされないそうだ。

行きと同様、敦賀駅乗り換えの特急で戻る。
敦賀駅での新幹線から在来線への乗り換え
について YouTube があるなどというわけのわ
からない情報に触れて、何のことだと思って検
索してみたら、こんな新聞記事があった。

確かに三階ホームからササッとエスカレー
ターで一階ホームの乗り継ぎサンダーバード
指定席に座ったら、発車 2 分前のアナウンス。
ここで手間取ると評判が悪くなるかと思って設
定した時間配分のミスだろう。

北陸新幹線の敦賀駅 在来線乗り換えシ ミュレーション

北陸新幹線 + フォローする

2024年1月18日 19:38



JR西日本は18日、3月16日の北陸新幹線金沢—
敦賀間の延伸開業に向け、敦賀駅（福井県敦賀
市）で新幹線と在来線特急との乗り換えを再現す
るシミュレーションを公開した。JR西日本とグル
ープ会社から約1000人が参加し、乗客役の人をス
ムーズに案内できるかなどを確認した。



5/ *

「関心領域」こんな映画タイトルがあるかと思
ったが原題だった。チラッと週刊誌映画評で目
にしていたが、忘れていたら町で眼にとまった。
見始めて紹介を思い出した。

それにしても気持ちの悪い人たちがばかりが
出てくる。映像の違和感は撮影手法を知って
納得だった。あの場所には行ったことがあ
る。





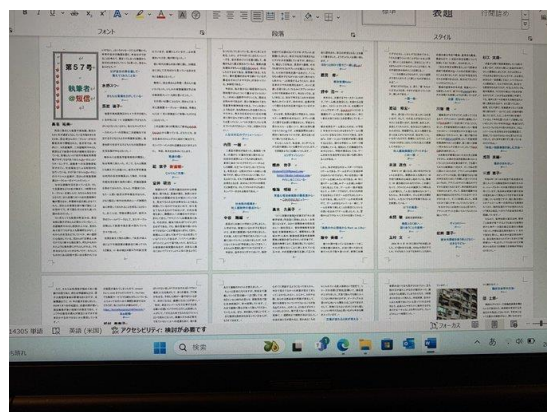
5/ *

大阪府高槻市は中、高、大の時代、つまり思春期を過ごした懐かしい場所。そこで暮らす13歳からの友人が民生児童委員会の副会長をしているので講演をと呼んでくれた。大ホールで100分ばかり快調に話す。終了後、二人で食事しながらアレコレ話す。元気で長生きならばこそその時間。



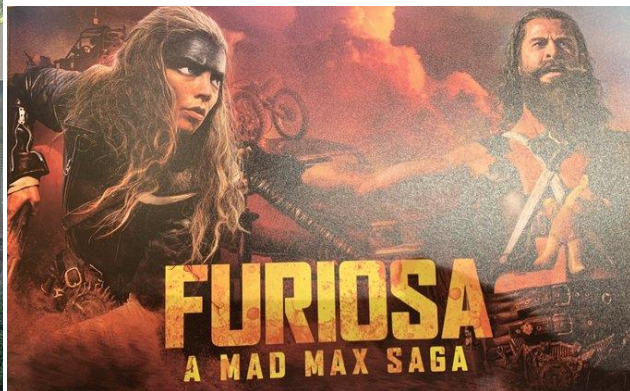
5/ *

今月の新作木陰の物語のペン入れが済んだ。あとの作業は仕事場のPCでないとできないのでここまで。月末締め切りの対人援助学マガジン57号、届く原稿の中から執筆者短信を入力していく。新刊書の校正原稿仕上げが大詰め。月末までにと心づもりしていたので多忙な5月末になった。



6/ *

半年に一度、亀岡の「AURA 学びの森」にお話に行くようになって5年。今日が9回目だ。継続が力なのは、この地で北村夫妻が二十数年続けてきた教室を見ると明らか。それを知った人が遠くからも通ってきている。本日は「家族の身体と声」をテーマに120分話す。今日もあっという間に終了時間だった。

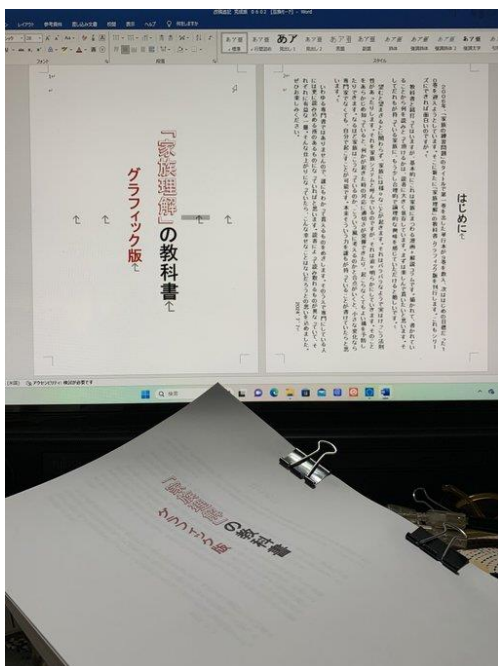


6/ *

6/ *

第二稿にあたる大幅整理をした新刊用原稿が完成した。今夜、明日に最終通読をしてから編集者に送る。第一稿よりスリムになって、複雑さはなくなった、と思う。まだこれからキャッチボールがあるから、完成はしばらく先だ。どんな本になるのやら、楽しみだ。さて、次はマガジン 57 号の編集。

同じ原稿を何度も読み返していると飽きる。気分転換に映画を挟んでと選んだのがこれ。前作、「マッド マックス 怒りのデスロード」がびっくりものだったので、さて今回は？と 4DX 劇場で観た。振動が激しく、水飛沫も飛んできて、ずっと落ち着かなかった。前作が再見しなくなった。



6/ *

昨日は仕事場に時々訪ねてくる M さんと楽しく四方山話。深夜は今日の対人援助学マガジン編集会議の準備。合間に Netflix の無駄話を楽しむ。今朝はストレッチのあと、ドトールで送信済みの新刊の原稿読み直し。とにかく二時間で通読しての感触を測る。じっくりくるまでにもう少し何かが必要。



6/ *

マガジンの編集会議は恒例の coco 壱番屋のカレーを宅配してもらう。チラシを見て注文する時、高くなったなあとの声に、過去のチラシを比べてみた。2017、2023、2024 と同じものを並べてみた。凄いな！



6/ *

貸し出していた掛け軸が戻ってきた。この後草津で開催のパネル漫画展用の作品選択、搬送に WさんとHさん来訪。段取りはついて

いるからお茶しながら雑談に花が咲く。整理していたら 2015 年の NY 展の看板掛け軸が見つかった。サイズも大きく、もう使うことはないが、玄関の吹き抜けならサイズ十分と見て掛けてみた。なんか、ちょっといい。



6/ *

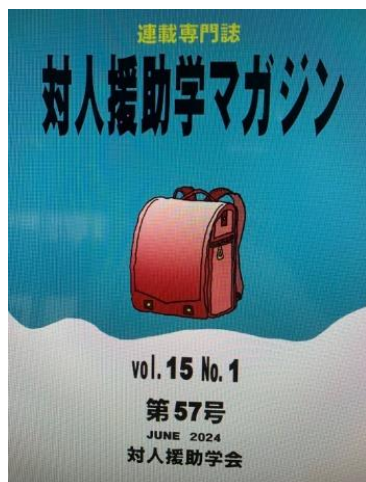
再来週 6/19 夜の zoom 講座「帰ってきたトークライブ」の演題が固まりつつある。何を話そうか思案してきたが、なかなかよしっ！とならなかったのが、今日一気に二話、ググッと浮上してきた。お時間あればご参加下さい。



6/ *

対人援助学マガジン 57 号の編集作業が大詰め。今回は病気や怪我など、執筆者に不測の事態かあれこれ発生。休載の方が多い。そのせいで 250 ページ余になった。定例の

6/15 にアップはできると思います。どなたでも無料でご覧になれます。いましばらくお待ちください。



6/ *

昨日は、滋賀県内の知人二人だから、自宅に来てもらって大いに語る。我ながらどんだけ喋るのだと思った。その後、夜の草津市家族勉強会でも勢いよく話す。

今聴いている本が面白く、そこに出てきた「ヒロポンと特攻」の話をしたら、以前その話をしたと言われた。全く覚えていないことに愕然。



6/ *

さて、大詰め of 差し替えも完了した。明日、対人援助学マガジン 57 号が定期刊行されます。今回は 250 ページあまり。いつもより少々コンパクト。お気に入りの連載が休載の場合もあります。とりあえず確かめてみてくだ

さい。私は、自分の連載内で新連載をそっと始めています。



6/ *

今から弘前 WS(青森)に行って、明日には戻ってくるという、いつもながらもったいないような旅程。伊丹空港搭乗口手前のイトインにいる。空港の食物はどれも高い。そんな中で、名店喜八洲のみたらし団子。一串 108 円。希望の数だけ食べられる。隣のたこ焼き屋は 8 個で 920 円。一個が 115 円。何様のつもりだたこ焼き！



6/ *

朝の弘前駅前。チェックアウト後、N さんに迎えにきてもらって会場に。岩木山の見えるいつもの会場。馴染みの方達と初参加の方達で、一日六時間、家族理解ワークショップ。何回

目になるのかわからんくらいだと世話人が挨拶。2000 年より前から来ていたような記憶が。



6/ *

今月の例会は、先月亡くなったぼむメンバーでもあった坂口の事務所に、うち揃ってお悔やみに。その前にランチ会。そこで篠原がこんなミニ写真集を皆に配ってくれた。遺族の知らない故人の姿をということで手渡すという。心配りの効いた偉い人だなあ。



6/ *

滋賀県草津市のここでマンガ展やっています。

書店で本もご購入いただけます。漏れた号をおそろえください。

【書店】
Book House ひらがきエスクエア店
(エスクエア SARA 2F)

<http://www.ayaha.co.jp/asq/>

期間中「家族の練習問題-木陰の物語-」1～9巻の在庫がございます。

=====

*書籍は全国の書店さんで取り扱いがあります。お取り寄せになることが多く、その場合数日お時間いただきます。



6/ *

ゆとりを持って行動している。しかし、JR 駅に来るとダイヤが乱れていた。次の電車は一本飛んだような状態だった。駅のベンチで 20 分ほど時間を潰す。約束のストレッチの時間に間に合わない。まあこれくらいのことなら仕方ないか。と思って、いろんな不運のある世界をこんな顔で歩いている。



6/ *

昨夜は 2020 年から zoom で始めた「帰ってきたらトークライブ」の十回目だった。一時間話の二本立てだ。二話目には 2000 年頃までよく描いていたコマ漫画作品について、蛇足解説を語った。一枚のマンガの背景にはたくさんの描かれていないモノが詰まっている。これは 50 年前に描いた大ヒット曲「泳げ、タイヤキ君」



6/ *

今年も立命館での東日本家族応援プロジェクト+の例会が始まっている。だんだんボケてきていて、自分の日程管理がルーズだった。そのため浜松プログラム前泊予定を変更。参加者には迷惑かけずに済んでいるが、余裕を見た時間を削っている。雨、大丈夫かな？



6/ *

浜松の家族理解 WS に日帰りするため少し早起き。近年、JR の定時運行が信用できなくなったのでとにかく早めに駅へ。在来線は通

常運転で安堵。しかし新幹線、乗車予定の一つ前の列車が 10 数分遅れている。名古屋乗り継ぎがどうなるか知らないが、空いてる席に乗る。すると久々に検札がきた。

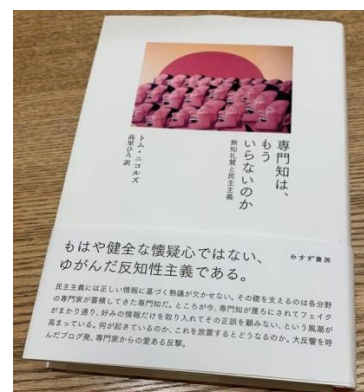
6/ *

昨日の締めは浜松駅前で鰻。ちょっと久しぶりだったがやはり美味しかった。今日は家に来て、本発送の集荷に来てもらう。同時に嬉しいお届け物もあり、先週のさくらんぼに続いて、良き黒猫の来訪だ。メールは宛先不十分で届けられないなどと怪しい事ばかり言うてくるので無視だが。



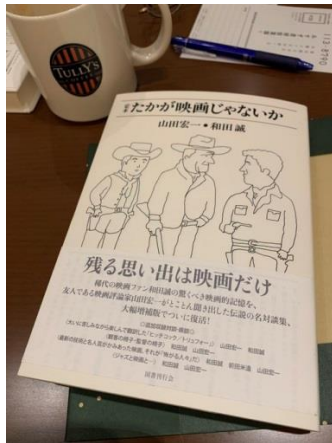
6/ *

そそられるタイトルの本の事を、SNS に誰かが書いていた。早速注文、すぐ到着。読み切るかどうかはともかく、いろいろ言いたいことが唆されそうな雰囲気だ。知を何のために、誰のために使うのかは、いつも考えていなければならないと思ってきた。そして、なぜそう思うのだろうかとも。



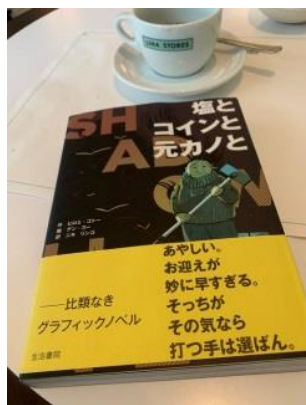
6/ *

この本は持っているんじゃないかと思った。
1978 年に刊行されてヒットしたという。書棚を
探せばあるんだろう。和田誠さんは亡くなっ
て、山田宏一氏が対談をいくつか追加して決
定版にしたという。早速拾い読みしたが面白
い。映画はテーマではなく画だと意気投合し
ているのがいい。



6/ *

ストレッチの後、いつもとは違う選択。すると
そこで思いもかけなかった新しい本に出会い、
続いて数冊も。その後、同じ場所の初めての
店でランチ。ここの味がいい。手に入れた本を
見ながらゆっくり楽しむ。すると新たな創作物
のプランがひらめく。しばらく退屈していたから
嬉しい。



6/ *

ただいま、このようなことになっています。お
時間見つけて、ぜひお運びください。



6/ *

その昔、毎週末乗っていた山陰線の特急で福知山に向かう。ここ三年、毎年この時期に、私の話が好きな人たちに招かれて、話したい事を自由気ままの三時間漸。福知山は我が子たちが人生の初期に育った場所。私は20代から30代の半ばまで11年暮らした街。福知山なんて昔は誰も知らなかったが、近年は時々目にする。



6/*

今年前半の締めがこれ。20年ほど毎年出向いている。こういうプログラム構成だと、大抵、後の出番は押して押して、すみません、ちょっと短めに・・・なんて事も多い。ところが今日は何と早めに終わってしまって、予定より早く開演のはこびに。気楽に長めに、だらだら喋らせていただきました。

夏の交流会
2024 **6/30** 日 13:00 ~ 16:00
YOSHUホール
主催：NPO法人FLC安心つながりのコミュニティづくりネットワーク

タイムスケジュール	お申込み・お問合せ
12:30 開場	メール・郵便・申し込みフォーム いずれかにて、ご連絡ください。
13:00 パール・ノートピアノ演奏	〒530-0035 大阪市北区河内1-11-1 ハイネス同中心202 フォンテック 2F E-Mail info@npo-fic.net
13:40 人もねこも 一緒に支援プロジェクト活動報告	
14:30 団士郎さんトークライブ	
16:00 閉会	

団士郎さん 「木陰の物語」の物語2024

家族心理臨床家「仕事場D・A・N」を主宰
マンガ家、コラムニストとしても活躍し、多数作品を発表。
全国で家族療法のワークショップや講演会を実施している

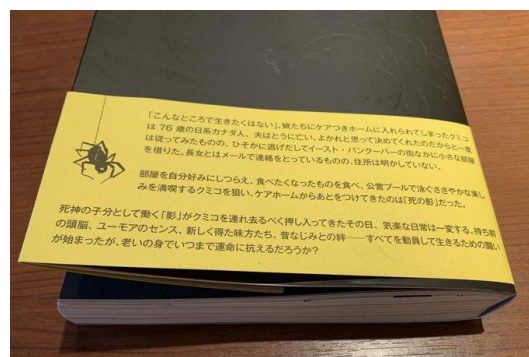
7/*

雨の日は外出しないで自宅仕事。「木陰の物語」新作の下書きが完了。ここからペン入れて、PCに取り込んで、再レイアウト。墨や影を入れて、キャプションをいれる恒例の作業。何度繰り返しても新作ができると嬉しいのが続いている理由だろう。今作のタイトルは「深夜」。



7/*

夜中、新作を仕上げて編集部へ送信完了。今日はストレッチに行って、その後京都開催の漫画家協会展を覗き、Sとしばし歓談。その後この350ページのグラフィックノベルを読む。なかなか不思議な興味深い物語だった。途中で気になったこの版元生活書院。ずっと昔に関わったことがあった気がする。



7/*

積読ペースが加速している。仕事場、自宅にAmazonからの配達が続く。ちょっと書店を覗くと興味深いものが。そして今日は久々に

BOOKOFF に立ち寄ったらアラアラ。陳列の違いで見つかる新たな興味もあって、読む時間が足りない。なのに audible にもハマっているのだからしょうがない。



7/ *

現在、草津市で漫画展開催中だが、更にもう1箇所。福島県での巡回展がスタート。今後、4箇所でお世話になる。いろんな人のお世話で、あちこちで見てもらえるのはありがたい。お近くならぜひご覧を。そして8月末には14年目の東北訪問。東日本家族応援プロジェクト+福島である。



7/ *

理由はわからないけれど、ずっと気になっていた映画「フレンチアルプスで起きたこと」を観た。こういう場合多くが、それほどでもなかった

で落ち着く。しかしこれは違った。人が殺されたり、大事件が起きたりはしない。なのにイヤハヤ強烈な映画だ。そうかあ、そうかあと思苦しさの二時間余。



7/ *

暑過ぎて外出する気持ちが萎える。涼しい部屋でゴロゴロ読書など楽しむ。高齢者ゆえ、お許しいただきたい。あさのあつこさんの時代小説にハマっている。昨日は旧知の人からのLINE 電話で二時間ばかり、彼の今後の戦略会議。いろんなことが様変わりだ。都知事選の後始末、石丸叩きが騒がしい。



7/ *

世の中の動きを、どこかに足場を定めた他者と語りあうことは、意見の差はあっても楽しさがある。垂れ流される話を情報だと受け止めてしまう安易な感性を叩き起こしてくれるからだ。歳をとると面倒臭い一言で諦めてし

まっていることが少なくない。それじやいかな
と今日は 5 年ぶりに機種変更に



7/ *

次男が家のメンテナンスに来てくれた。大型
TV の故障を SONY の修理センターに依頼して
くれている。基盤の取り換えはなかなかの高
額。観られるようになって意欲高まる。植木
屋さんが入ったあと、周囲の雑草が目立つ玄
関周り。酷暑の中、その草抜きもしてくれた。
ランチはちか定へ。混んでいるだろうとは思っ
つつ行ったので、17 組目だったが待つ。



7/ *

祇園祭間近の日曜。人出の多い四条烏丸付
近でK君、M君とゆったりランチ。実は長い付
き合いの、同じ大学心理学専攻の三世代であ
る(といっても皆、50 オーバー)。食後は仕事
場に来て、彼らはいつものように途中で買った
ワインを。今昔話、業界、人物評、なんでもご
ざれの六時間弱。そして飲まない私のところに
空き瓶が残る。



7/ *

後期高齢者医療保険料の通知がきたので支
払いに。高いなあ。新しくなった iPhone の充電
ラインをもう一つ手に入れに。髪を切っておき
たいので、月曜だけど今日はやっていると聞
いていた HANDS へ。その後、次のマガジンの
準備で、まずは表紙を仕上げる。時間があ
るときには、あれこれやっておきたい。



7/ *

こんな登場人物の掛け軸漫画制作を開始した。最終的には来春のぼむ展に間に合えば良い。時間があって気が向いたときに作業すると楽しい。何度でも試行錯誤可能だし、見切り発車しなくて良い。好きでやっていることにノルマ感を持ちたくないの、やたらに早くスタートする。これが秘訣だな。



7/ *

外は暑い。ノルマは少ない。ならばインドア派だな。月末のWSの準備をしたり、ネットで映画を見たり。そしてやっぱり掛け軸作りの二作目を試してみたり。この時代小説三部作も最終巻、まもなく読了。一人時間の楽しみ方が上手になったのか、バランスが良くなったのか。



7/ *

曲者ならば「名をなれ！」になるのだが、失せ物は黙っていなくなる。眼鏡などその最たるもの。おや？消えたな？と思ったらもう見当たらない。仕方ないので新しくした。毎度同じ店に行くとボケ老人と思われそうで、ちがう眼鏡屋に。気に入っているが、ほぼ近眼は消えたと言われた。



7/ *

夏を感じている表明にアロハ。いつの頃からか気に入って、体は一つなのにコレクションみたいに所有している。誰かの着ているアロハも、街でもTV番組でも常に気になる。そして、去年3月にホノルル空港で、なんとなく買いそびれたアロハがずっと気になっていたりする。買っときゃよかった。



7/ *

ストレッチに行こうと、泊まり込みの仕事をしたら、御池通は大混雑。エッと思ったが祇園祭のあと祭りだとか。なんだそれ？ 混雑を避けて目的地に。一時間が終わって表に出たら夏っぽい大雷雨。濡れないように道を選んでドトールで新作の校正中。お祭りになると日本人比率も少し上がっている。



7/ *

月末から8月はじめに、出向く仕事を立て込んでいる。そのため月例の新作制作ができないので、早目に着手、完成させる。ペン入れ作業のBGMは時代物オーディブル。吉川英治は初めてだ。藤沢周平は鶴岡市の文学館に行ったのに休館だった。よくそういうことがある。



7/ *

Facebookで繋がっている知人が、家族の練習問題第4巻のことを書いてくれていた。嬉しくてコメントを返した後、本棚から出して久々に読んでみた。"悲しみも、哀しみも"の副題もいと書かれていたが、読み返してみても

当にそう思った。12年前に出た自分の本に、ウルツとした。コラム陣も凄い。



8月10日開催、74回目の東京WSの告知です。お盆です。お時間あれば、初めての方も、専門ではない方も、家族のことを考えてみませんか？

三 shiro-san.com

2024.07.07 12:39

【8月10日東京】第74回家族理解ワークショップ東京

通算74回目の東京開催は、8月10日土曜日にエコルとごしで行います。ご興味のある方は下記をご確認ください。

【開催概要と参加申込方法について】

開催日：24年8月10日（土）

開催時間：13時30分～19時30分（休憩含む）

参加費：9,000円（学生6,000円 ※社会人学生は除く）

会場：エコルとごし

アクセス：<https://ecoru-togoshi.jp/guide/access/>

> 参加申込は下記のリンクよりお願いします。お申し込みが完了しますと、折り返し参加案内のメールが届きます。

<https://asoblock.smtg.jp/public/application/add/3589>

> 前回（24年5月開催）の様子

https://www.asoblock.net/works/will/lw_hp/lw_zenkai.html

> 参加者の声

https://www.asoblock.net/works/will/lw_hp/lw_koe.html

対人援助職のための家族マネジメントプログラム

ああ shiro-san.com

7/ *

絵面からは南国にでもいきそうだが、そうではない。久々の伊丹。さあ出発。



7/ *

盛岡で新しく「家族理解ワークショップ」を。続くかどうかは参加者が決めることだが、初めての人たちにたくさん会えたのは嬉しい。若い世代の参加者も多く、二回目がやれるといいなと思った。

沿岸部の宮古市には 10 年も通った岩手県で新たな縁かも。パリ五輪開会式のニュースより、大雨の隣県山形のことが心配。



7/ *

帰路までのひと時、たまにしか来ない盛岡市内を歩いてみた。駅から盛岡城址公園に。小雨あがり曇り空下の緑だが、とても綺麗だ。とはいえやはり暑い。川の水勢に山形の大雨被害をおもう。「もりおか啄木・賢治青春館」でのリンゴジュースで一息つく。どこかで盛岡冷麺でもたべていかな。



7/ *

あまりの暑さに自宅待機。復活した大型画面で Netflix のシリーズ一気鑑賞。「地面師」、あったなあこんな事件が。合間にオリンピックも。みんながんばってるねえ。明日からまたお出かけ仕事あり。



7/ * - *

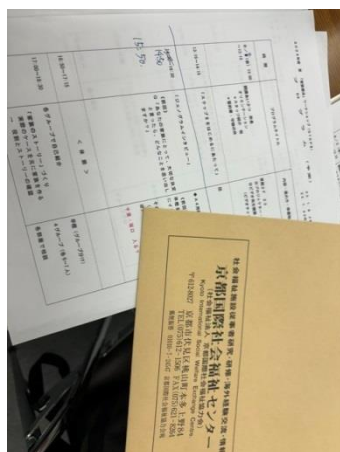
月末、二日間は立命館茨木キャンパスで 6 コマの家族療法/援助技法ワークショップ。夏休みに入った大学で、定年退職後も続けさせてもらっているプログラムだ。学部生から社会

入院生まで幅広い受講陣。実習を多くと思うが、つい、社会システム現状への変化起こし人としての期待が溢れる。



8/2

さあ酷暑の中始まった京都国際社会福祉センターの家族療法WS。スタートしてから30年以上経つのではないかな。今回の2024step2に、二十三名の参加。児童相談所からの参加比率が近年、ますます多くなった。今回から次世代スタッフ二名がフル参加することになり、4人体制で三日間。順調に開始。



8/*

WS 第二日。昨日、各グループが準備した課題を抱えた家族4ケースに、45分✕4の180分、初回面接をローテーション実施。午後からはそれぞれに様々な方法で、理解、介入チャレンジ。ジェノグラム事例検討と家族造形法が今日午後のプログラム。

8/*

三カ所でのWSを無事済ませて、仕事場籠りの日々。8月に予定されたものの準備をしたり、読書したり。映画館にでも行こうかとも思ったが、そんなに観たいわけではなかったのでもやめる。こういう自由もいいなあ。あちこちの打ち合わせメールや夜中の電話も、ドンドン片付ける。順調だ。

8*

おおそうだ、今夜は琵琶湖花火大会だ。外に出てはいけない、もしくは仕事場に泊まり込んで大津市を避ける日だ。年々参加者が増えて、毎年午後からは大変な人出になる。公式ページを見て驚いた。湖岸に立ち入る席が5000円。フー。子どもの頃、親に連れられて人ごみの中を浜大津に出かけたなあ。



8/ *

東京 WS74 回目に向かう。家からの移動中、聞いているのはこれ。新幹線は南海トラフ地震関係で部分徐行運転だとか。三連休の全席指定のぞみは満席。新幹線東京方面行きの時の定番、とり松のばら寿司。車中はこれを楽しむ。



8/ *

今日の会場、品川区「エコルとごし」はとても綺麗な施設だ。ここで楽しく六時間。今日のプログラム編成はなかなか良かったんじゃないか、と自画自賛。いつものことか？



8/ *

役割を終えた翌朝。出先で 1 日フリーだ。日常にもそんな日は年齢と共に増えたが、大抵はゆっくりする事になる。今朝は目覚ましもセ

ットせず寝てたら、チェックアウト 10 分前に目覚めた。慌ててホテルを出て、興味のある所に向かう。その前の朝食は大井町駅のパン屋さん。美味しい。



*

立ち寄り一つ目。恵比寿の東京都写真美術館。ここは好きで四度目かな？ 写真を観ようと来たのだが、別フロアで展示の、いわいとしお展が面白かった。懸命に物を作っている人のエネルギーが自分を激励してくれる。できる間はいつまでもだな。



写真展ではこの2枚が目についた。共に記憶を呼び起こしてくれた物だ。一つ目は次男との父子旅で訪れた N.Y. 安宿ウェリントンの夜明けの窓から見下ろしたブロードウェイ。一晩中、救急車の音がしていた。2枚目はどこというのではない。妻と訪れたあちこちの旅が想われた。明日は 4 年目の命日。



2カ所目の立ち寄りはこちら。東京ステーションギャラリー。一コマ漫画に熱を上げていた頃、その類書を買えばフォロンは必ず載っていた。漫画家ではないがヒトコマは綺麗だった。展示の中ではポスターが格別素晴らしい。71歳で亡くなったと知り、自分の歳を考えてしまう。とにかく頑張ろう。



8/ *

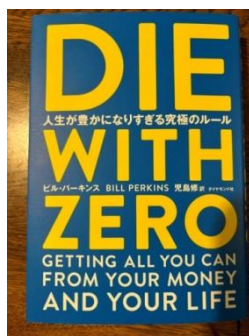
昨日は姫路からTさんが妻の四年目の命日、お参りに来てくれた。二人でじっくり話し込む。今日は夕刻から、長い馴染みの家族心理学会繋がりのおくん、Tさん夫妻と、平木さんの四人で、美味しい割烹での食事会。例によって私は喋りすぎかもしれないが、みんな楽しそうに過ごせて良かった。



8/ *

仕事場でゆっくりしているとすぐ時間が経つ。冷房の効いた部屋で本を読んだり、漫画を描いたり Audible を聞いたり Netflix で面白そうなものを見たりしていると、自由気ままな夏休み感には溢れるが、酷暑の中働いている沢山人達に申し訳なくなったりする。私もそんな時代はあったのでご容赦を。





8/ *

昨日は下旬からの宮城、塩竈展に向けてパ
ネルと掛軸の発送にHさん来訪。福島巡回
展も実施中だ。今月も締切前倒しで「木陰の
物語」新作を描き始める。月末は対人援助学
マガジンの締切だから、その前に描き上げて
おこうという、良い心がけである。仕上がるの
が楽しいから締切が苦にならない。



晩年 DAN 通信内新連載

連想映画館（2）

2000年代半ばから10年あまり、別のところで連載
していて、ごくわずかにの人にしか読んでいただく機会がな
かった原稿の再掲です。

オレンジと太陽

2012 年公開 イギリス映画

監督 ジム・ローチ

からのゆりかご

子どもは家族に属することで、社会的影響
がダイレクトには届かないよう守られているとこ
ろがある。保護者の選択に身を委ねるのは、
責任の所在は親にあると言って良いと承認さ
れているからだ。

「母親のせいでこうなった」、「父親があんな
だったから、こんな自分になった・・・」などと後
になって言わせてくれる相手が見えているの
は、まだそこから拓かれる未来があるのかもしれ
ない。

家庭事情や親の思いがけない不運によって、
厳しい世界のまっただ中で、一人で育たざるを
得なかった子ども達がいる。歴史のうねりの中
で、選択の余地もない剥奪に翻弄されながら
育った人たちだ。

この映画は1967年(昭和42年)まで、延々
と国家的事業として行われてきた児童移民を
扱った作品である。イギリスは国策として、大英
帝国時代の影響下にある国々(カナダ、ニュー
ジーランド、ローデシア、オーストラリア)に十三
万人もの子ども達を、単身移民させてきた。そ
の多くは実親に育てて貰うことのできない事情

から、施設にいた子ども達である。



事業の初期、子ども達は里子として里親(個人)の家に送り出されていた。養育困難になった家庭の子達の未来を考えると、これは今も有効に機能している選択肢だ。養子縁組ではなく、一定年齢に達するまでの間、里親宅で養育をして貰う子は世界中にいる。十八歳になるまで、施設で育つ子どもが多く、里親宅で育つ子どもはごく少数という日本は、かなりな里親後進国だといえる。

しかしこのイギリスの児童移民はやがて、社会状況の変化の中で、オーストラリアの人口増強政策とつながってゆく。国土の広大な豪州だが、人口はなかなか増えなかった。1940年頃の世界の状況。日本軍が南進するインドネシアは、オーストラリア大陸北部とは目と鼻の先だった。

豪州社会はその未来に、不安を抱えていた。原住民だったアボリジニの同化政策を採りつつ、イギリス系国民の人口増を政府は切望して

いた。一方、本国は経済的にも厳しく、施設には子どもが溢れる状況にあった。

移住

現在のままでは生活してゆけないと判断した人々が、家族揃って新天地を求めて移住することは少なくなかった。ある時期、特定の地域に生じた移民の歴史は、世界各地に散見される。日本でも南米への移民政策が活発だった時期がある。また、国際養子縁組で幼子が海を渡ることも、過去から現在に至るまで各国に存在する。

しかし多数の自国民の子ども達だけを、組織的に移住させるような政策は希だろう。アボリジニの親子隔離政策や、ルーマニア・チャウシェスク政権下のそれに、親と子を切り離したものが見られるが、怪しげな事業であったことは否定できない。

政策以外にも、子どもを親から切り離して集団的に養育する動きは見る事が出来るが、いずれも社会の賛同を得られたものではないし、成功したものでもない。たいていは社会運動や宗教的信念に基づく、主張先行の失敗に繋がった動きだった。

とにかく、イギリスの児童福祉施設にいた子ども達を、クレーンでつかみ取るように船に乗せて、何千キロも離れた異国に、継続的に送り込むようなことはあり得ない。

積荷

それは西アフリカの沿岸部各地から、たくさんの人たちが拉致され、船に乗せられて、南北アメリカ大陸に連れて行かれた奴隷商人が闊歩した時代を思わせる。

「黒い積荷」という本をずいぶん昔に読んだ。いきなり連れ去られた人々が、まったく環境の

異なる土地で数多く亡くなった記録の物語だった。奴隷労働に耐え、解放される日まで、強靱な体力と精神力で生き延びた黒人という物語は、一部のそう語れる人のストーリーだった。

実態は、驚くほど短期に、多数の人々が風土病で亡くなっている。奴隷商人達にとっては、遠路はるばる連れてきたのに、歩留まりが悪い。もっと丈夫な奴隷を連れてくるよう客から求められているという話が印象的だった。そんなことを思い出させるような出来事である。



現在

映画のファーストシーンは、ソーシャルワーカー(以下、SWと記す)が警察と一緒に家庭訪問するところだ。養育がハイリスクであると公的機関によって判断された子が、実母の腕の中からSWの手で保護される。しかしこれは映画の本筋ではない。イギリスの今日の、要保護児童対応の描写である。

これを見て私は、この作品がイギリスにおいてかつて行われていた不幸な出来事について

だけが描かれた作品ではないことを見逃してはならないと思った。ここに監督のイギリス社会への視線が示されていると思った。

日本社会でもずっと話題の中心に居座ってしまった児童虐待。要保護児童の救出は、児童相談所にとっては、失敗してはならない急務である。TV放映される児童虐待防止キャンペーンは、とにかく市民は通報せよと繰り返す。

たしかに「疑わしきは罰せず」ではなく、「疑わしきは保護を」でないと、最悪の事態の未然防止は不可能である。しかしこれが過度な不安と過剰防衛(保護)を引き起こすことは容易に想像できるだろう。その結果、親の側には、公権力による我が子の略奪という家族体験が強く刻まれることになる。そういう意味で、この導入部はとても印象的だ。

しかし本論が始まるのは、この後である。ある日、SWが業務を終えて帰宅しようと、駐車場に向かう途中、一人の女性から声をかけられる。相手は彼女がSWであることを承知していて「自分の親がイギリスのどこかで生きてるかも知れないので探して欲しい。私は幼い頃に単身、イギリスの施設からオーストラリアの施設に送られた者だ」と語る。

このSWが映画の主人公であり、原作「からのゆりかご」を執筆したマーガレット・ハンフリーズである。いきなり未知の女性から信じがたい話を、書類をかざしながら訴えられ、思わず「法的にそんなことはあり得ない！」と返してしまう。もっともなことである。未成年の子が単身で移住し、親の消息も分からないなどという話は、誘拐事件の被害者でもない限り、考えられない。

女性は、「私が嘘をついているというの！じゃあ、もういい！」と怒りと共に去ってゆく。

記憶と記録

これが1980年代半ばの出来事である。このSWは、そこそこの経験を積んだ専門職の女性である。知っておくべき業務上の知識は当然持っていただろう。ならば、1967年まで実施されていた児童移民についても、直接関わってはいなかったとしても、知っているのが普通ではないか。広く一般市民が承知していたとは思わないが、その分野の専門職なら、過去において行われていた業務の歴史は知っているのではないかと思った。

だがSWは知らなかった。彼女だけではなく、同僚達も誰も知らなかった。つまりはイギリス社会が、二十年ほど前まで、合計十三万人もの小国民の人生に処方していた政策を忘れたのである。いや、みんなが無意識に、言及するのを止めたのかもしれない。子ども達は地の果てのような場所に送り込まれ、やがて後からは誰も来なくなり、置き去りにされた。

誰にも知られないところで、様々な虐待も起きた。訴える手段からも遠ざけられた場で、それでも子ども達は育ち、大人になった。そしてその存在は、本国の歴史記憶から消えかけていたのである。

それはまったく別角度の、こんな事実からも興味深く例証できる。日本でイギリスの児童福祉政策を専門として研究し、まもなく定年退職になる教授がいる。この人が2012年まで、このイギリスの児童移民のことを知らなかった。研究者として大きなショックだったのではないかと思う。氏はラストスパートで、この事業がどのようにイギリス本土で展開されていたのかを、今調査していると聞いた。だがこれは当然の結果かもしれない。本国で渦中の業務に従事しているSW達が知らなかったのである。たまたまであるはずがない。

この事実に気づき、子ども達の処遇の痕跡を探し出す努力をマーガレット・ハンフリーズは一人で開始した。すると次々、該当者が見つかったのだから、組織的な隠蔽は行われてはいなかったのだろう。ただ、社会全体が忘れたがる過去は、急速に歴史的事実の項目からこぼれていくことが分かる。

歴史からの学び

児童移民をおこなっていた社会はその後、反省をこめて、再びそのようなことの起きない制度構築をしようか？あの時代、親の意志確認もせず、子どもだけを遠くの国に移住させた国で今、かなり積極的に公権力をもって不適切な養育者(児童虐待者)から子どもを隔離保護していると聞く。

私はこの研究をしているわけではないから、詳細までは承知していない。しかし2011年春、ロンドンに視察調査の一員として同行した訪問先の一つは、公権力によって子どもを奪われた人たちの権利を擁護する組織だった。移民の多い国だからそこでは、様々な母国語のスタッフが働いていた。

現在、セラピューティックコミュニティという発想で、傷ついた子ども達に手厚い回復プログラムを実施しているイギリスに、一方でその勇み足に対する異議申し立てシステムが存在することは、過去から学んだ結果かと思う。

発掘

たまたまの出来事から、SWは隠されたイギリス児童福祉の消えかけた歴史に気づく。その該当者がオーストラリアで成人して沢山暮らしていることを知る。そして、いきなり親探しを打診してきた女性が、その一人であることに気づく。

これによってマーガレット・ハンフリーズの人生は一変した。調査のためのトラストを設立し、これに専従する。そして、かつての子ども達一人ひとりの過去をたどって、公文書資料館や出生証明文書のあるところを探す。オーストラリアにも通い、該当者の消息を探る。その結果、想像もしなかった多数のかつての子ども達が、パースやメルボルンに在住していることを知ることになる。

映画の詳細をこれ以上述べはじめると、きりが無い。是非ご覧になって、この事実だけではなく、私たちの社会がやりがちなことを考えて欲しいと思う。

どんな仕事もそうかもしれないが、中でも子どもの福祉に関わる仕事は、その十年後、二十年後が問われている。これが範囲限定された治療行為の専門性との大きな違いだ。

立ち位置

長い時間をかけて結果に遭遇するしかない問題を、短期的な熱意やアイデアで対処すべきではない。家族の問題はまさにそうだ。だから私は、「それでも何とか、ご家族の皆さんで…」などと優柔不断なことを言ってきたのだと思う。合同家族面接が好きなのも、そういうこ

とだ。

私は新しい診断や薬、技法に浮かれるのも、煽られるのも好きではない。誰も彼もが同じ言葉や口にして騒ぐ業界流行語は大きな問題だ。時の風に煽られて、誰かの人生を大きく傷つけておきながら、さっさと忘れてしまうような世論や政策に安易に同調してはならない。

こんな事を書くのは、私たちが類似のことを何度も繰り返しているからである。少しの賢明さがあれば、「もう今は、あんな事は行われていません」などと脳天気なことは何に関しても言えない。

私たちは過ちを繰り返す生き物である。にも関わらず歴史は自分たちに都合の良い編集をしてしまいがちだ。だから個人の記憶が大切なのだ。因果で固めないシステム論には、当然のように時代や社会が内包されている。だから曖昧さを抱えていることも承知である。けっして短期的な問題解決だけを志向しているわけではない。

＊

児童移民に関してオーストラリア政府は2008年に、イギリス政府も2010年に、該当者に対して公式謝罪した。